

こうや 清 県政レポート

民主党かながわクラブ
横浜市保土ヶ谷区版
(平成28年春季号)

横浜市保土ヶ谷区西谷町 623
TEL 383-1290
FAX 383-1291
kohya.kiyoshi@gmail.com
www.kohya-kiyoshi.com

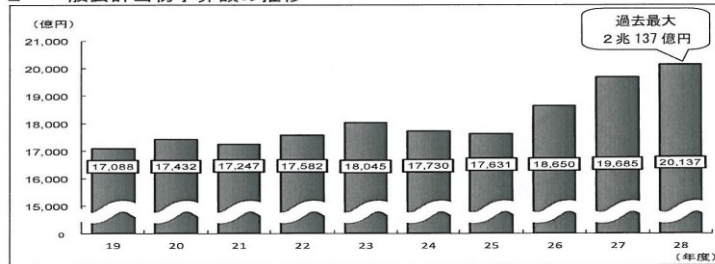
発行責任者： 高谷 憲

民主党かながわクラブ保土ヶ谷区版

初の2兆円超え予算で“健康長寿日本一へ”

28年第一回県議会閉幕！

2 一般会計当初予算額の推移



三月二十四日、「健康長寿日本一」を目指して一般会計で過去最高の2兆円を超えた神奈川県予算案など63議案を採択して平成二十八年第一回県議会が閉幕しました。

神奈川県モデル創造発信予算と銘打って、ラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて、人を引きつける神奈川県づくりを加速させるほか健康長寿の取組みなどを強力に推進し、神奈川県から経済のエンジンを回していくという黒岩知事の意欲が結実し、厳しい財政環境ながら初めて2兆円を超える予算が成立しました。この成立した予算を確実に執行し、県民が実感できる成果を上げるよう議会は厳しくチェック、しっかりと進行管理に努めなければなりません。

同時に行財政改革は手綱を緩めるわけにはいきません。

他の都道府県に比して県債残高も着実に減らし続け財政健全化の道は歩んでいますが今後益々介護・医療・児童関係費が増大し、道路や橋脚など公共施設の老朽化対策にも膨大な費用が必要となるからです。

ムダ・ムリ・ムラのない県民本位の県政実現のため、財政健全化への道を力強く歩み、税財源を国から地方へ移譲させる「真の地方分権改革」を実現させるまで党派を超えた頑張りをしなければなりません。

高谷県議が担当する県民局所管は 一五二七億円

高谷県議の担当する県民局は、保育士確保のため保育士修学資金貸付事業、保育士資格のない保育補助者の雇用経費を補助する新規事業に計十五億円、平塚市にある元県立五領ヶ台高校跡地に情緒障害や知的障害のある子どものための児童自立支援拠点新築工事に五十億円など「子育てするなら神奈川県」「県内どこでも待機児童ゼロ」をめざして子ども・子育て支援事業充実強化に前年比8%増の三二億円、子ども・子育て支援充実に総額四三〇億円を計上、総計一五二七億円と他局に比して多くの予算を割き「県民のくらし安全重視」の予算となっています。

私たちが納めた税金がどんな事業にどの位使われるのか、県民局の今年度計上された主な事業を新規事業に絞ってお知らせいたします。

県民局所管の主な新規事業名と事業概要、予算額

1、待機児童対策の一層の推進

(単位：千円)

小規模保育整備事業費補助など	保育所の緊急整備や認定こども園の整備等をする市町村に対し補助する。	1,098,554
保育士修学資金貸付事業等事業費補助	県内の保育所等へ就職する意思を有する学生への修学資金の貸付事業等に対し、その経費を補助する。	300,104
子育て支援員研修事業費	小規模保育や家庭的保育などに従事する子育て支援員として、必要となる知識や技能等を習得するための研修を実施	23,162
保育補助者雇上強化事業費補助	保育所等における保育士の負担を軽減するため、短時間勤務の保育補助者の雇い上げに必要な経費を補助する。	299,191

2、児童自立支援拠点新築工事費

目的	情緒障害、発達障害や知的障害のある子どもに対し、総合的な支援体制を構築するため、心理・医療等の専門的ケアができる入所機能を持った児童自立支援拠点を設置する。	
予算額	44,544,000 千円（総額 4,933,000 千円）〈平成 27 年～28 年度〉	
整備地	平塚市片岡 9 9 1 - 1（元五領ヶ台高校） 平成 29 年度開設	
延床面積	8,886 ㎡ 情緒障害児短期治療施設、障害児入所施設（3 階建・定員 42 名）、乳児院（定員 12 名）	

3、子どもの貧困対策の取組み

子ども・青少年の居場所づくり	ひとり親家庭等の子ども・青少年が安全・安心に過ごすことができる夜間の居場所づくりを推進する市町村に補助する。	10,400
子ども貧困対策会議(仮称)の設置	高校生などの学生やNPO、行政などを構成員とする新組織	800
ポータルサイトの開設、運営	ひとり親の方が気軽に相談や意見交換をすることができるポータルサイトを開設、運営する。	5,600
子どもの貧困実態把握と分析、施策提言	子どもの貧困の実態を的確に把握し、新たな施策の検討や既存施策の見直しなどに活用するため、研究機関と協働で子どもの貧困に関する実態調査・分析を行う。	2,000

4、ライフキャリア教育かながわモデル発信事業費

大学生用啓発冊子の作成	大学におけるライフキャリア教育の更なる拡大を目指すために、ライフキャリアをプランニングする力を身につけるための冊子を作成する。	3,676
大学向け出前講座及び教材開発	ライフキャリア教育未実施の大学に対し、出前講座を実施し、ライフキャリア教育の意義や効果を認識してもらう。	9,108
検討委員会の設置・開催	効果的な教材開発等にあたり、学識者等からアドバイスを受けながら進めるための検討委員会を設置する。	216

5、マグネット・カルチャー推進事業費

「ミュージカルあふれる神奈川」に向けた取組み		
「スキヤキソング」世界発信プロジェクト	世界中で大ヒットした「上を向いて歩こう(スキヤキソング)」(神奈川ゆかりの作品)を素材としたオリジナル舞台作品を制作	18,202
ベトナム交流プロジェクト	音楽舞踊劇の日越国際共同制作に向けて、ベトナムでワークショップを実施	1,000
市民ミュージカル・サミット	県内で活動する市民ミュージカル団体の発表の場の提供や交流を図る公演を実施	2,876
パフォーミングアーツ・アカデミー卒業公演	歌・ダンス・演技など舞台芸術の人材を育成するアカデミーを卒業した人たちの公演を実施する。	2,220
地域の魅力の掘り起こしと発信		
マグカル・プロモーション事業	マグカルの認知度向上を目的とした取組み	4,350
市民ミュージカル推進事業	国際観光戦略の有力なコンテンツとするため、神奈川オリジナルの「地劇」ミュージカルの公募を行い、優秀作品に公演の場を提供していく。	10,000

※マグカル 神奈川の文化力(カルチャー)で人を引きつける(マグネット)という黒岩知事の造語

6、県民ホール本館・県立音楽堂の改修

県民ホール	県民ホール本館舞台設備改修工事実施設計費	63,600
	県民ホール電気設備改修工事費(債務負担行為の設定)	691,191
県立音楽堂	県立音楽堂改修工事実施設計費	81,900
	県立音楽堂舞台設備改修工事実施設計費	6,600

7、「グローバル戦略」の推進

多言語情報支援事業	「多言語支援センター」を設置し、多言語による情報支援の充実を図るとともに、災害時等に緊急情報を多言語化して発信する。	22,697
-----------	--	--------

議会復帰し1年、お蔭様で力一杯頑張ることができました！

有難うございました

5月

活躍の場決まる！

- ・県民企業常任委員会
- ・経済活性化産業振興特別委員会に所属
- ・決算特別委員会副委員長に就任

4月



初登庁！皆さんの熱い思いがどっしりと重いバッチをつけてもらい、さあガンバルぞお

昨年の四月十二日、「私に議席奪還させてやる！」との皆さまの強い思いと粉骨のご尽力により、正に「至誠通天」したあの感動の日から早一年が経過しようとしています。お蔭様で私は水を得た魚のように若いものに負けず劣らず、経験を生かした議会活動を精力的にさせて頂きました。

本場に有難うございました。残された任期三年、「当選確実！」のあのときを決して忘れることなく皆様のご恩に報いるため、毎日毎日神様に感謝御礼を申し上げながら頑張り続けますのでどうぞ引き続きのご指導ご鞭撻を願います。

反省を踏まえてこの一年を振り返ってみました。

10月



産業振興経済活性化特別委員会で相模原・谷が原太陽光発電所を視察
谷が原太陽光発電所は企業庁の水道事業用地で谷が原配水地（横浜スタジアム2個分の広さ）上部を約4,700枚のパネルを設置し、一般家庭約320戸分の電気をつくることができます。

県内の国の機関が移転？

「絶対ダメ！」と委員会ですら緊急の質問。

政府は県内にある国の機関（宇宙航空科学研究所、理化学研究所など8施設）を県に事前相談なしに他の地方に移転させようと誘致希望を募りました。

核施設とも当初は国の要請を受け、関係自治体とともに用地確保等に協力し、今では当該自治体にはなくてはならない施設ばかりです。

特別委員会で緊急質問したのを始め、意見書提出に奔走、全会派結束して政府に県議会議長名で意見書を提出しました。

8月

県営水道技術をベトナムへ！

昨今、県とは経済や人的交流など多方面で交流が深まっています。発展目覚ましいといってもまだまだ公共施設の整備が遅れているベトナムに、県央地域280万世帯に供給している県営水道技術で国際貢献をしようと県民企業常任委員会の一員としてベトナムの二大都市、ハノイ市、ホーチミン市を訪問。水道当局と活発な意見交換をしてきました。

9月の常任委員会審議を受け、県企業庁も2月に県企業庁がベトナムを訪問し、ホーチミン市で技術協力の具体的協議に入ることになりました。

11月



「鎌倉も！」と世界遺産に登録された長崎の端島を産業振興経済活性化特別委員会で視察。

通称、軍艦島で知られる端島は明治から昭和にかけては海底炭鉱によって栄え、東京以上の人口密度を有していたが、1974年の閉山で島民が島を離れてからは無人島になっています。

政府が方針を撤回！

12月

10月4日、後援会の皆さんと伊豆のみかん狩りと三嶋大社へ当選後初のバス旅行。最高の天気にも恵まれましたが、お目当ての三嶋大社の金木犀の花は終わって散っていてガッカリ。

12月9日4年ぶりの本会議登壇！空き家対策、高齢者対策等を知事とやり合い、久しぶりに高谷節が議場に鳴り響きました。



末期がん患者に朗報

12月6日、30年来の県の悲願、がんセンターに重粒子線治療棟オープン。開所式に建設に携わった一員として出席しました。

大盛況の感謝の夕べ

12月6日、平成27年の感謝の集いは、生涯忘れられない会となりました。大勢の共に戦いぬいた仲間たちの前で、「感謝感激で胸が張り裂けそう！」と感涙に咽びながら新たな決意を披歴しました。

昨年は総選挙と重なり自粛した抽選会も復活、多くの方々からの多種多様な提供品とともに大変な盛り上がりでした。



1月31日、後援会の皆さんと必勝を祈り守り続けた達磨のお焚き上げとともに、ゆず神社に御礼の初詣。雪の残る素晴らしい景色の清里高原ホテルで食事を楽しみました。

民主党から民進党へ

民主党が維新の党と合併し党名が民進党に変わりました。

党名は変わっても私は変わりません！県民党です。地域を代表する高谷です！

6区（保土ヶ谷・旭）民進党衆議員候補は青柳陽一郎氏に！

三村和也氏は10区（川崎市高津・宮前区）に転出。

28年度横浜清山会総会並びに県政報告会

○とき 5月14日（土） 11時より

○ところ イズミ産業2階「広美」

○かいひ 3,000円

よろしく願います。

“地域と行政を結ぶホトライン”に徹し、歩み続けたこうや清の30年

“光陰矢の如し”港南区から保土ヶ谷区へ落下傘候補として選挙2カ月前に急遽立候補宣言してから三〇年の歳月があつと言間に流れました。

私の七転び八起きの後半生は、「何くそ負けるもんか！」の反骨精神からでした。同時に沢山の人々に迷惑をかけ、支え励まされてきたお蔭様の賜物でした。

私も齢六八歳、いつまでも闘争本能剥き出しではダメ！と少しはゆとりを！と報恩感謝の気持ちでこの三〇年の歩みをこれから何回かに分けて回顧録を綴ってみることにしました。

保土ヶ谷区から県議選に！

田中慶秋民社党衆議院議員の地元秘書として港南区を担当しながらいつか港南区から県議選に出たいと活動していた私に田中議員から「高谷くん、保土ヶ谷区から県議選に！」と言われたのは選挙の2カ月前でした。「保土ヶ谷区には知っている人がいない無理」と数年間の活動で広めた田中後援会の皆さんの後押しもあり、私は、港南区からの出馬を懇願し、田中議員からの要請を固辞していません。

当時の衆議院選挙は中選挙区で南区から、瀬谷区までの8区にまたがる広い選挙区でした。地盤の弱い保土ヶ谷区の強化のために「少年野球の人たちがいるではないか、君ならばできる！」の一点張り。確かに少年野球の監督コーチの皆さんとはグラウンド掘りに奔走していた私とは親しくなっていました。広い保土ヶ谷区では一握りに過ぎません。しかも民社党の支持基盤は脆弱

そのもの。労組出身の市議員はいましたが、県議はいません。地盤強化を急ぐ田中先生は何度も挑戦してその都度敗退していた荒木氏に市会に換え、私を県議候補にと白羽の矢を当てたのです。

「無所属でも港南区から県議選」と固く固辞していましたが、「君ならできる、やってくれ！」との固い決意の田中先生に根負けし、おだてにも乗り、「じゃーやってみるかあ！」と決心しました。私が三十九歳でした。

拠点の選択からのスタートです。当時の県議は三人。連続トップ当選を続ける社会党のM女史、自民党のE氏、公明党のS氏、三人とも地盤は区内東部、西部には一人もいませんでしたので、出るなら西部から！と不動産屋さんを歩き回りましたが、どれも五十歩百歩、決めかけていると辿り着いたのが西谷でした。

捨てる神あれば拾う神あり、とは正にこのことです。西谷商店街の重鎮、神様は荻部不動産店の故荻部末吉氏に巡り合わせてくれたのです。「うちの二階でどうだ？」と未だコンクリートを打ちぬいたままの床、壁の向こうはスナック、とても事務所にするには躊躇しましたが、商店街の真ん中で駅のそば、西谷という地の利も申し分なし！それよりも何よりも荻部さんの温厚柔和な人柄に「この人に頼っていれば間違いない！」と直感し有り難くお借りすることにしました。

図々しくも私は荻部さんに「後援会会長になつていただけませんか？」頼んでみました。すると「代議士の秘書で力があるなら西谷中への学校橋は昔から丸太の橋、何とかしてくれないか、高谷くんは仕事ができる男と宣伝しやすいから」との返事。保土ヶ谷での初仕事、キャッチフレーズ「地域と行政を結ぶホトライン」はこれからスタートしました。（以下、次号に続く）